

# にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jro.or.jp/>



編集・発行/松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL.089-924-1111 FAX.089-922-5892

Vol.10  
2007年7月1日

《基本理念》人愛・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき医療を通じて地域社会に貢献します。

## COPDという病気をご存知でしょうか。



呼吸器科部長

山本 昭彦

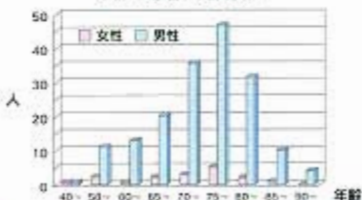
呼吸器の病気において、COPD（シーオーピーディーと読む）という疾患が注目されています。和訳で、慢性閉塞性肺疾患といい、従来“慢性気管支炎”、“肺気腫”と呼ばれている病気が該当します。その名の通り、気道が塞がれて息苦しい状態が続く病気です。咳や痰、息切れなどの症状が長年にわたり持続して（本人が気付かない

うちにゆっくりと進んでいく）、進行すると呼吸不全に至るのです。日本においては、喫煙率の高さと高齢者人口の増加とが相まり、今後患者数が増えたと考えられます。

### COPDの原因は为什么呢？

原因の多く（80～90%）はタバコと言われています。煙に含まれる有害な粒子やガスを吸い続けると、肺に炎症が起こった状態が持続し、気管支の慢性炎症や肺胞の破壊が生じます。2001年の疫学調査では、日本には約530万人の患者さんがいると推定され、有病率は40歳以上の8.5%と、諸外国と同様高いことが分かりました。当科のCOPD患者年齢分布（図）です。

COPD患者・年齢分布



### いったいどのような状態になるの？

肺というのは気管から気管支へ木の枝のように分かれ、最終的には肺胞（はいぼう）という小さな袋状の構造が無数に寄り集まってできているのですが、

この肺胞が破壊されて、いわばキメの細かいスポンジ状の構造物がスカスカのヘチマのように変わってしまうのです。この変化は不可逆ですから、ガス交換できる健康な肺が少なくなり、重症になると呼吸不全に至ってしまうのです。

### 症状について

風邪でもないのに咳や痰が長引く、同年齢の人と同じ速度で歩けない、息苦しいなどの自覚があれば要注意です。そして現在～過去に涉っての喫煙歴があり、40歳以上であることなどが揃えばCOPDの可能性が疑われます。当院における患者さんの主訴をCOPD重症度別に分けた場合、軽症例ほど咳や痰などのありふれた症状が多く、呼吸困難が強い場合は、すでに病気の重症度が高い傾向でありました。

### 診断について

スパイロメーターという簡単な呼吸機能検査によって診断を行います。スパイロ検査は、肺活量や息を吐くときの空気の量を測る検査です。スパイロ検査で、努力肺活量（最大限に息を吸って吐き出したときの量）と1秒量（1秒間で一気に吐き出せる量）を測定します。スパイロ検査は、健康診断の項目やお近くの内科クリニックなど、取り入れられている施設は増えてきております。

### 治療と禁煙について

COPDは進行性の病気、現在のところ根本的に治す治療法はありません。従って早期発見と早期治療が重要になってきます。早期の治療を開始すれば、肺機能低下を食い止められ、健康な人と変わらない生活を続けられます。そして治療の基本は、まず“禁煙”であり、進行を食い止める唯一の方法であります。薬物治療には、収縮した気道を広げる気管支拡張薬（吸入薬、内服薬）や咳痰を出し易くするための去痰薬があります。しかし対症的な薬であり、やはり悪い空気を吸わない（禁煙をする）事が十分でないければ、病気はより進み易いのです。ご存知の通り、ニコチンには依存性があり、かかりつけの医師とよく相談をされながら禁煙を進めていく必要があります。また風邪などをこじらせて気管支炎等を起こすと急性増悪といって更に病気が進み易くなるため、風邪の予防と初期治療も大切です。

## ～大空から「しあわせの花」を～ 全日空より「すずらんの押し花しおり」寄贈

全日空グループでは、入院患者の皆様にも元氣になってもらうことを願って、昭和31年から全国各地の赤十字病院等へ「すずらん」の寄贈を行っており、当院においても6月15日（金）全日空キャビンアテンダントの有馬亜耶さんが病院を訪問して、松山空港に到着した「すずらんの押し花しおり」400枚を届けてくれました。

キャビンアテンダントと病院代表者は、26病棟（肝胆膵病棟）、23病棟（産婦人科・小児科病棟）、13病棟（リハビリ病棟）を訪問し、入院患者の皆様の日も早い回復を願い、「すずらんの押し花しおり」とともに歌手の一青窈さんが前向きな気持ちを願って書き下ろした詩を患者様に手渡され、患者の皆様は、「早く退院できるようにがんばります。」と笑顔で答えていました。



## 平成19年度災害訓練開催

大規模災害が発生し、多数の傷病者が来院した場合の訓練を実施し、職員の方々の災害に対する意識を高め、災害時における当院の体制を整備することを目的に第4回となる災害訓練を6月16日（土）に行いました。

平日午後には伊予灘を震源とするM7震度6強の地震が発生し、当院周辺は震度5強の揺れで、人的被害・設備・備品に被害があったものの傷病者の受け入れは可能であるという想定で傷病者の受け入れ訓練を実施しました。



## 中央検査室総合受付の変更について

平成19年5月7日より中央検査室総合受付（採血室）の場所を3号館2階エレベーター正面に変更しました。採血室へのご案内もマイクで患者様の名前呼び出す方法からプライバシーを保護する目的で採血番号券を発行し、外待合室にかけた番号表示板と番号アナウンスにて行なう方法に変わっています。これからも、検査室では総合受付業務を通じて、プライバシーの保護、快適空間の構築、待ち時間の短縮、迅速結果報告を目指し、患者様に安心と満足を提供できるよう尽力して行きたいと考えています。



## 第4回 地域医療連携フォーラム開催

**テーマ：松山医療圏における新地域医療連携構想**

～地域全体で少子高齢化、医師偏在に対応する連携弘構想（愛PLANet）～

日時：平成19年9月30日（日）13時～15時30分

場所：愛媛県民文化会館 サブホール

定員：1,000人程度

入場料：無料（どなたでも参加いただけます）

本フォーラムが、現在、地域医療が直面している少子高齢化や医師偏在の問題について、住民の皆様にご理解頂く機会になればと考えております。一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしております。